

幼年期から少年期にかけては、大いの人間は、よき親を恵まれることによって、自分の生命の健全さを保つことができるものである



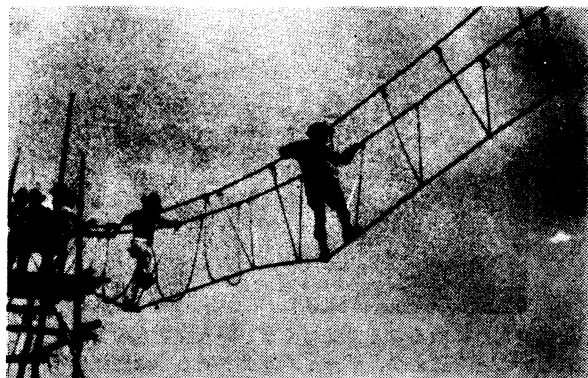
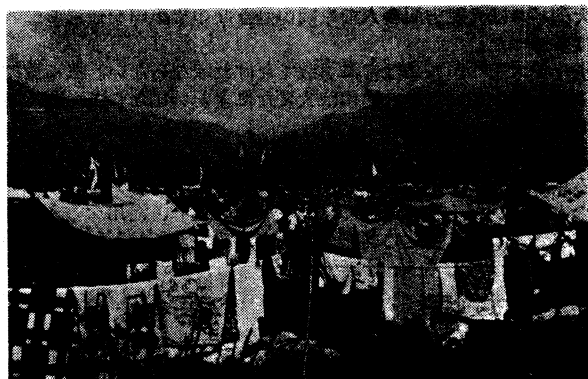
だが、そろそろ青年期に近づくに従って、よき師、よき兄弟とよき友達とが、時としてよき親以上に大切になって来るものである。

下村湖人作・次郎物語より

ジャンボリー特集

楽しかりしこぞの夏の思いは、ここに繰り返す。

岡山県日本原で、開催された第4回日本ジャンボリーは、数々の苦しみと、楽しみを残して、国外、国内3



万名のスカウト（少年達）は東に西に、南に北に別れてゆく、国境を越えた暖い友情を、しつかりと胸に刻み、父母、兄弟のいる故郷へ帰つてゆく。さよなら…と声を限りに叫び

ながら……。

＝ 貴重な歴史の一頁を飾り得た事をみんなでよろこぼう＝



若さは感動を生む!!



① 暑い暑いことなした。低温予測があつただけにグッとこたえる。日本原のジャンボリーも記録破りの暑さの中で行なわれ水不足でシャワーも十分でなかった。プールの使用申込みも津山市迄あつたそうだが断わつたとか。もともと受け入れ体制がしてなかったのだから不思議はない。大型バスは大阪方面の人でも岡山廻りなので津山を通過した者は多かつた。チャンスをつかむには常に勇敢でなければならない。仮に受け入れを考えていたら、津山は大変なぎわいになつていたであろう。さて、この大会から何を学んだか、地元の奈義、勝北では考える点が多かつたと思う、連日の行事を見にいつたのも地元の人が多いだろう、第一にアーリーナを保護し、活用を考えるとよい。ともかく勝北の高原の価値を再認識してほしいし、不作

の自衛隊の演習場であつても、今回のような催しができることも知つてもらいたい。

あの美しい夜景も今夜かぎり、突如として出現した大きな町が又消えて再び草原にかえると、日本原付近はもとの静寂に帰るわけだ。地元の人は一瞬さびしきを感じるのではないだろうか発展策を考える上でのよい参考になつたと思う。

人の動きは多くなければならない。日本原の町はこの大会にあわせて改造されたが、してよかつたと納得していることだろう貴重な歴史はムダにならないものである。

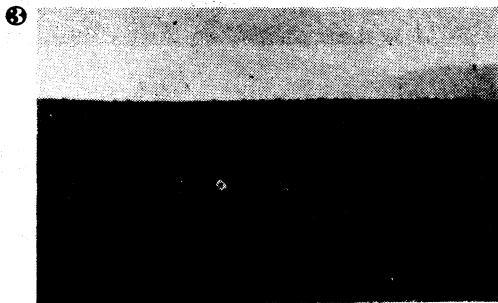
重箱のすみをつつくような批判よりも大局からみて建設的でなければならない。若さとは感動でもある。それを失つたら若さは育たない。私利私欲にのみ興味があるようなボスがのさばることなく、感動を味わう町づくりが大切だと思う。

若さが満ちあふれ、感動譜を続けたジャンボリーの教訓を、何とか地方に生かしたいものだ。

＜津山朝日新聞々あさひ直言々より抜すい＞



友情、規律、奉仕、



③ 友情、規律、奉仕を高らかに第4回日本ジャンボリー、那岐連峰のふもと日本原の草原に、11カ国3万人の少年が5日間寝食をともにした。39年のオリンピックは「世界は一つ」といった感激を日本国民が強くだかせられたものだが、今回のジャンボリーも集つた国は少ないにしても、より多くの少年達が国境を越え、言葉のへだたりをものともせず生活を共にした。そして楽しいキャンプ村を出現した。

いうなれば、そこに友情と規律が満ちあふれて、心と心のつながりが強く結ばれていたからであろう。参加した少年達はこの5日間に、身を持つて多くの貴い体験をしただろうが、参観した親達をはじめ、一般人も大いに教えられるものが数多くあつ

たはずである。いや、そうでなくては、会場を誘致することに努めた故三木知事の霊は浮かばれないというものだ。亡き三木知事は「岡山県の子どもたちには明るく健康な組織がない」と気づいて、あらゆる努力を払つて遂にこのジャンボリーを県下に誘致するに成功したのである。この機会に再認識をしておかねばならない大切なことだ。



① 学校教育だけに頼ることはたくましい人間形成の目的が達せられないことを思えば、ボーイスカウトあるいは海洋少年団といった子ども達の社会教育的組織がぜひ必要となる。まだこうした組織には少年達のホンの一部しか参加ができていないのだ適当なリーダーを必要とするだろうが、父兄達も進んで理解と協力を惜しまず、社会性に富んだ第2の国民をつくりあげることこそお互いの責務であることをこの際、十分に胸にきざんでおきたいものである。＜地元新聞々津山朝日々紙上より＞



写真説明 ①第4回日本ジャンボリー中央会場入口大ゲート(弥栄門)これを入つた所に本部受付あり、当着届、健康診断書の提出を済せ、隊旗用ペナントを授与。

②開会式の一コマ 3万余のスカウトをうめつとした、中央アーリーナ 隊旗群の入場風景。

③中央に日章旗をひるがえして沖縄スカウト派遣団の入場

④自衛隊戦車部隊 スカウト達にはこれが大歓迎。

⑤徹夜開始より1時間余分で日通ラックに荷物の積込を終り、猛暑の中を一息入れる先輩、不快指数100をこえる(三輪写ス)

～ 私 の 作 品 集 ～

第四回ジャンボリーに 参加して

浜松11団2班
らいおん班班長

袴田 和弘

ぼくはこの日のために色々と訓練を受けて来た、そしてその成果が実って11団の代表として日本ジャンボリーに参加できたことを非常な名誉に思っています。

第1日の夜、ぼく達若人を乗せた汽車は日本原へと向かって出発した。浜松駅を立つ時父が見送りにきてくれたが、一週間も会えないせいかなんだかさびしくなった。

その夜汽車の中であすは設営がまっているからねようねようと思つたがうれしさのあまり少ししかねむれなかつた。

勝間田駅へ着いたのは朝の7時ごろだった。町はぼく達を歓迎してくれるかのようにな万国旗がなびいて町の中は美しくかざられていた。ぼくは地元の人達がぼく達のためにこんなに協力してくれていることをうれしく思った。

日本原についた時ぼくは二つびつくりしたことがあつた。一つははるか彼方の山のふもとまでつづいているテントの群れがまるで一つの町のように見えたことだ。この光景はどんなことがあつても一生わすれられないでしょう。あと一つはあたり一面野原で日かげのできるような高い木が一本もないことだった。こんな悪条件の中で一週間も生活できるのかなあと思った。

炎天下での設営がはじまつた、みんな一週間も生活するとあつてしんけんになうてやっている。皮膚からは汗がにじみでてくる。夕方になると開会式が行なわれた。空では放送局のヘリコプターが地上すれすれまで飛んで開会式のもようを撮影し、地上でも放送局のカメラマンが撮影して大変盛大な開会式となった。会場ではみんなの拍手がたえなかつた。

今度のキャンプは地区の合同キャンプとちがつて非常に自由時間が多かった。ぼくはその時間を利用して外国スカウトと品物の交かんをした。まだ習いたての英単語を使って話しをすることもできた。

ぼくにとっては初の経験で大変よい思い出になった。

一番うれしかったことは何といつても温泉に入れたことだ。エキスカンションの時、まだ日本原にきて一回もからだを洗ったことがないのでみんなからだ中まっ黒、温泉に入って今までの汗を流してサッパリ大変気持ちがよかつた。

一番こまつたことは、水を吸い上げるポンプが故障して何回も断水したことだった。ひどい日には一日くらい水がでなかつたことがある。又この水は飲料水にしてはいけないうことになつていたので水は給水車がはこんでくる水しがのめない。それなので給水車が水をはこんでくるとみんな目の色を変えて、てあたりしだいのバケツをもつてとんでいく、その光景は競争といつてもいいくらいのさわぎだった。

いつも水道のじゃ口をひねればどんどん出てくる水がこんなに大切だと体験できたことは非常に勉強になったと思う。ぼくはこのジャンボリーで得た最大のことがらは、水のありがたさだということである。これからはたつた一てきの水でも大切にしたいと思う。

水はこんなにも

大切なものか

12団少年隊

北村 惣一郎

「ガタン」と止つた所が、第4回日本ジャンボリーの開催地附近の駅、勝間田。胸がわくわく心もはずみ、バスに乗り、2,30分で日本原に到着。戦車が数台おいてあり、よい所だと感じた。静岡プロックの浜松地区にテントをはつた。この時から先ほどの「よい所だなあ」という感じが、うたがわれてきた。車が走ればほこり、列で歩けばほこり、飛ばせばほこり。なんでもほこり、ほこりだ。第1日目は、みんな疲れたらしく、ねつきが、ものすごく早かつた。つぎの日は、第1日目のほこりが本格的になつてきた。が第2の難問題が発生した。それは、水不足だ。

この問題はジャンボリーの終りまで続いた。第1日目、第2日目、第3日目は、あまりおもしろくなかつたが、第4日目ぐらいから、おもしろくなつてきた。が、やはり、そのおもしろくなつてきたのも水不足が解決されたからではない……。そのままの調子で閉会式をむかえた。「水不足」「砂ほこり」の問題点がなければ、いつまでいてもいいんだがなあ。こんなにも、水のありがたさが、わかつたのは、はじめてだ。

学ぶことの多かつた

日本ジャンボリー

浜松12団少年隊

吉野 博

こんどの日本ジャンボリーは、自分としては始めのうちはあまり楽しくなかつたが、大營火、そしてその他いろいろの行事がはじまると、次第に楽しくなつてきた。

このジャンボリーで最も心に残っているのは、先ず水がとても少なかつた。一時は「日本連盟は、なぜこんな水の少ない所でキャンプすることをきめたのか」少しばかりおこりたような気もするが、これも修業と思えば、別にどおつていうことはないと思う。

次に中央会場が、とても遠かつたことが心に残っている。中央会場なら、それらしく、キャンプ地の中央にあつたほうがよかつた。その他、ほこりがひどかつた雨がふらなかつたのは、よかつたが、少し日照りが強すぎて疲労が激しかつた。しかし、このキャンプを通して、いろいろ学び、外国のスカウトとも話しをし、その他の地区のスカウトとも話しをして数多くの人々と友人になれたような気がする。そして、浜松市内だけで行なうキャンプとスケールがちがつて、とても楽しく愉快にすごすことができた。

そして、口では言い表わすことができないが、自分として何かを学びとつたような気がする。またこのような、体験をふだんの生活にいかして行きたいと思う。

暑中お見舞申し上げます



日本ボーイスカウト 静岡県連盟相談役 浜松地区名誉役員 浜松市長 平山博三	日本ボーイスカウト 静岡県連盟常任理事 浜松地区協議会長 内田六郎	日本ボーイスカウト 浜松地区委員長 県連理事 内田時世	日本ボーイスカウト 静岡県副コミッショナー 内田嘉一
日本ボーイスカウト 浜松地区副協議会長 吉沢純道	日本ボーイスカウト 浜松地区副委員長 県連理事 宮沢広士	日本ボーイスカウト 浜松地区特別委員長 林良太郎	平版／凸版 企画／デザイン (株)浜松印刷社 BS浜松第6団 団委員長 土谷為吉 TEL③0940～0941
BS浜松 1 団 飯島政治 鈴木三郎 吉沢純道 高橋勝倉		BS浜松 4 団 団委員長 内田時世 団委員 小池和雄 ◇ 後藤慧真 ◇ 牧田晴夫 ◇ 牧野八郎 ◇ 滝口和宏 ◇ 安岡魅 SS隊長 野口光一 ◇ 副長 牧野 積 BS隊長 鈴木 実 ◇ 副長 丸山 繁夫	
BS静岡県連推薦 BSキャンプテント 天幕内の使用 救急 休息に軽くて運ぶに便利な ポーターベツト (カラシ色 空色 ミドリ色) スポーツユニホーム全般 ドラゴン印 KK アダムスポーツ服装 浜松市高町大通 TEL⑨1448		キャンプに 内山ビーチランド 観光バスは遠鉄へ お問合せお申込は 遠鉄観光案内所 TEL 54-2217 浜松	

明日に向って 共にはげみましょう



BS浜松11団

育成会長 鈴木 俊雄
 団委員長 青葉 昭雄
 団委員 墨岡 基隆
 〃 小杉 六郎
 〃 和久田 英二
 〃 竹内 照久
 B.S.L 古橋

B.S.L

土井 庸一
 山口 隆彦
 神谷 秀次
 鈴木 直隆
 太田 康司
 市中 光伸
 稲垣 智也
 青葉 宏次
 川元 昇志
 沢田 忠

BS浜松12団

育成会長 加藤 房之助
 団委員長 中嶋 圭介
 副 〃 伊沢 清夫
 〃 金森 武四郎
 〃 鈴木 栄藏
 団委員 幅 賢三
 〃 野中 三雄
 〃 藤見 春雄
 〃 吉野 光明

団委員 大村 省一
 〃 青木 実雄
 〃 河合 忠雄
 〃 斎藤 康夫
 〃 金子 勇夫
 〃 竹内 十詩生
 〃 新村 健雄
 〃 雨宮 辰雄

BS浜松15団

団委員長 林 良太郎
 副 〃 長沢 三五郎
 〃 山中 将司
 會計 藤田 武雄
 団委員 加藤 俊助
 〃 大谷 幸平
 〃 長谷川 隆久
 〃 青島 栄一

団委員

松本 長一
 嶋野 誠二
 平野 武夫
 山下 敏次
 杉本 芳彦
 原口 孝夫
 河合 利夫
 水田 元富
 原田 虎男
 山下 広

C.S.L

BS浜松16団

育成会長 根地島 保一
 団委員長 市川 重雄
 団委員 新井 信一
 〃 小泉 ちづ子
 〃 増田 正則
 〃 松原 宣吉
 〃 中村 新

団委員 鈴木 主計
 B.S.L 石津 宏
 〃 市川 京文
 〃 新谷 豊
 〃 山口 照司

BS浜北1団

育成会長 横田 清雄
 団委員長 杉山 友男
 団委員 松本 芳郎
 〃 小栗 春義
 〃 野末 武
 〃 沢木 輝哉

団委員 宮下 昌好
 〃 高島 勝雄
 B.S.L 坂東 毅一
 〃 奥野 嘉一

ジャンボリーご苦労さんでした

地区コミッショナー 渡辺 年啓
 副 〃 桑島 明王
 〃 平野 武
 〃 鈴木 秀彦
 地区事務長 三輪 悦爾
 〃 次長 青葉 宏次
 〃 〃 野口 光一

世界に伸びる

ヤマハ オートバイ
 ヤマハ ボート
 ヤマハ 船外機

ヤマハ発動機株式会社

ヤマハ

ピアノ オルガン エレクトーン
 洋弓 スキー バスタブ

日本楽器製造株式会社

足がら山物語り

—ツキノワのまきをよんで—

浜松12団CS隊4組

鈴木 とおる



はじめに、山火事がおこります。そのことは、動物たちが、赤い花の悪まきとよんで、山火事をおそれています。その次に山のつながみがおこりました。その時は、みんな助かりました。それで、山のつながみがおわってから、食べ物がなくなったので金太郎に、食べ物をもらいました。その金太郎は、自分のことはあんまり考えなし、動物たちのことばかり考えている子どもです。そしてとても動物たちにやさしく、動物たちと話が出来ます。ば

くもその時は「動物と、どうやってしゃべるのかなあ」と考えて、感心したりおどろいたりしました。ばくも金太郎みたいに、動物ともしゃべれる、しんせつな少年になりたいと思います。

ジャンボリーを

顧みて思うこと

地区野営行事副委員長

鵜野 誠二

①国際的にも国内的にも青少年の心身鍛錬として実に意義深し。

②支那事変の頃、火野葦平氏の「妻と兵隊」土と兵隊を思い出し、一種の土と少年、或いは土と少年兵を連想して灼熱の下、土とほこりにまみれ、メイジウし難い困苦に耐え水の欠乏に耐えて一週間もの間、3万名からの大衆団ムードによりおし切ったことは立派と云う外はない。

③色々な事で無理も多かつたり子供も指導者もブツケ本番という団が多かつ

たと思いますが、後から後悔するような事が多々あると思う。第一に指導者がうまく中央の指令通り機敏に一貫した体勢をとれたか、子供たちも指導者の掌握にうまく入れたか、これは内田コミの言う通り30,000名は限度一杯だという事につけるかも知れない。

④国単位、地区単位に指示不適確な点あらん。例えば大行進時水筒携行が浜松地区内でもまちまちの如く。

⑤8日の各隊リクレーションなど11時間半ものバス旅行は連日つかれ切っている子どもに一考を要する問題ではなかったか。

16団の如き津山プール利用等帰路車中で石津君からきき周辺地域のリクレーション場をもっと事前に研究すべきだと思ふ又土地のPRも必要の由。

⑥7日より私の見た範囲では朝も日中も軽い体操などやって居る団は一つもない。これは水泳場の準備運動なしで入水させ心臓マヒで死亡者を出した事にも指導者の一考を要する事だろう。(死者神奈川県)

⑦飲料水の欠乏も致し難い問題でした。が体を洗う水は絶対に必要、皮脂線がつまり皮膚呼吸をそがいして不潔感がたかり、こどもをホームシックにする。

⑧生野菜が少なくてこどもは野菜の油いためなど要求していた。生野菜の少ない時は果実などもつと欲しい。暑い時にはカニ罐など入れた野菜サラダくらい適当に食慾を出せるよう工夫されたい。

⑨こどもの携帯品も各隊手ごろをして居た由。統一の出来ないものなら無理はあまりしない方がよい。

⑩浜松地区として姫路の食事等は統一事前連絡をしてはどうか。各団毎に指導者も困らん。

各団姫路駅の列車への乗り方は落第であった。要するにどんな小さな事でもこどもたちが進んでやるしつけ、乗り方は勿論下車時の紙屑処理等注意の要あり。

以上要するにこども中心主義で細目にわたり今後の集団野営や隊野営で改善すべき点は非常に多いと思う。

私は期間を通じて各位の御尽力に万腔の感謝をささげて後につづく御父兄の御支援を願ってやみません。 以上



紹介

地区組織拡張
委員長

杉山 友男

氏は、当年52才の活躍盛り、「浜松の産」現在浜北市小松。

昭和39年7月1日、浜松市制記念日と同日、まつに久しかった浜北市にボーイスカウト第1団が誕生する…と同時に団委員長の重責を負わされ青少年の社会教育、特にボーイスカウト運動を熱心に推進され、青少年

の指導養成につくされておられるとおりである。

昭和10年日楽入社、同14年応召、自動車隊に入り北支に転戦、命を的に国家につくされた勇士である。17年復員、復社。30年能率課長を最後にヤマハ発動機発足と共に、同社に出向、34年ヤマハ発製造部長から日楽製造副部長に転勤、同35年昌和製作所がヤマハ発傘下に入ると共に同社に常務取締役として出向、38年北川自動車に転じ、同39年同社代表取締役、41年代表取締役を辞任、同社取締役のまま、ヤマハ発に転じ、生産技術部長となり、同年6月同取締役以上述べれば、氏の人となりが、充分うかがえる。氏は常に頭が低く、物の考え方が素直で、新鮮な言動には、学ぶ事多し。青少年から今後益々親しまれ伸展することの言をまたない。

地区内のたより

ウツドバツチャー誕生!

浜松地区にウツドバツチャー2名誕生す。写真向って右側は副コミッショナー桑島亮(周智1団隊長)左側は鈴木栄(天竜3団隊長)、手に巻いて持っているのがパーチメント……。いかにもうれしそうですね。今後の活躍が約束されました。



大天幕浜松地区へ



浜松ロータリークラブより大天幕が贈呈されました。贈呈式後3ロータリー社会奉仕委員長の面々々にこやかにカメラにおさまったボーイの代表者たち。写した人が入っていない(残念でした) 三輪提供

贈る火災見舞金

去る6月17日午前10時頃全焼された12団財政委員青木実氏一家に御見舞金を贈る(二人のお子さんは12団カブ隊員である)

隊長会一同として隊長研修会の折り拠出 ￥3,000

地区委員会として各団より集りました金 ￥13,000

尚青木氏より地区並リーダー会一同へお礼の手紙が参っておりますので紙上を通じお知らせします。

防犯協会より表彰さる

去る6月13日、浜松中央署3階に於ける中央防犯連合会総会の席上、県副コミッショナー内田嘉一、地区事務長三輪悦爾の両氏は、中央防犯連合会長より表彰された。 弥栄

地区ローバー誕生 (17団) 弥 栄

永年の夢であった、浜松地区に青年隊誕生

隊長に内田嘉一氏(県副コミ)を迎え、益々浜松地区に於ける活動が期待される。

就職者、大学在學生(平均年齢18才)17名に依り、8月28日を期してスタートした。

児童会館ホールに於て、先輩、後輩達に見守られ、ローバースカウトの胸の中は、どれ程の喜びが、ひそんでおるだろう?

もしこのローバー隊の力が、十二分に発揮されたとき、浜松地区に於ける、スカウト活動がどの様に伸展する事だろう。三士会(隊長会)に次ぐ推進力として大きく伸び乍ら、後輩達に良

き、自発活動の意気を伝えてゆく事を心から信ずるものである

育成会長 内田 六郎(地区協議会長)

団委員長 内田 時世(地区委員長)

副団委員長 宮沢 広士(地区副委員長)

〳 柳本 冬彦(地区副委員長)

団 委 員 刑部 正三(地区財政委員長)

〳 中嶋 圭介(指導者養成委員長)

〳 市川 重夫(野営行事委員長)

〳 大橋 俊蔵(進歩委員長)

〳 杉山 友男(組織拡張委員長)

隊 長 内田 嘉一(県副コミッショナー)

副 長 三輪 悦爾(地区事務長)

〳 渡辺 年啓(地区コミッショナー)

副 長 補 平野 武(地区副コミッショナー)

〳 鈴木 秀彦(〳)

仮A班

馬淵 光久 (7)

北村 裕一 (7)

江間 豊 〇〇

相曾 益彦 〇〇

B班

沢田 洋一 (6)

宮崎 賢蔵 〇〇

六野 智彦 (7)

鈴木 康高 〇〇

C班

中嶋 繁光 (6)

佐原 幹之輔 (7)

高柳 礼司 〇〇

鈴木 久隆 (1)

D班

赤林 静夫 (4)

藤平 敏夫 (7)

竹山 泰司 〇〇

鈴木 淳司 〇〇

平田 稔 (6)

ライオンズクラブより天幕寄贈さる

8月4日貨物フォームに於てジャンボリー派遣の出発を兼ねて天幕目録贈呈式が催され、内田時世 地区委員長が代表して受け、お礼の言葉を述べる。

昭和41年8月16日

浜松地区委員会殿

静岡県周知郡春野町領家328の1

秋葉山本宮秋葉神社内

日本ボーイスカウト周智第1団

団委員長 河村 豊男

三指、前略 8月5日より8月9日まで開催された第4回日本ジャンボリー参加に対しては種々御配慮を戴き有難く感謝致します。8月10日午後4時30分全員無事帰宅致しましたから御休心下さい。

幸い期間中何事もなくすごし得た事もこれ一重に関係各位の当団に寄せられた御厚情の賜物と一同感謝致して居ります。今後共何卒よろしく御指導の程お願い申し上げます。

先は右御礼旁々安着のお知らせまで 弥 栄

うごき (浜松地区) 5,9~8,28

- 5月9日 市スポーツ教室(野外活動) 指導 体育館会議室(内田、三輪)
- 12日 市スポーツ教室指導 市営プール(三輪、渡辺)
- 14~15日 41年度日連全国総会・岡山市 ジャンボリー会場視察を兼ねる(三輪)
- 14日 第10回日本体操祭浜松大会奉仕 市営グラウンド
- 17日 スポーツ教室指導 体育館(内田嘉、三輪)
- 18日 浜川川宇連 キャンプ場下見〔山主挨拶を兼〕(内田、三輪)
- 19日 三士会(隊長研修会)法林寺研修 ジャンボリー関係他
- 20日 第1回地区健康安全委員会(法林寺)ジャンボリー参加に伴う健康診断及日脳注射及各団救急薬品の点検及整備
- 21日 県連指導者養成委員会=県連事務局 各種講習会開催に伴う案件及指導要綱他(中嶋圭介)
- 25日 青少年活動推進委員研修会 勤労青少年ホーム(内田嘉)
- 28~29日 スポーツ教室 キャンプ指導 青少年の家広場(内田嘉、渡辺、平野、三輪奉仕)
- 29日 市青年研究集会(助言者三輪) 青少年の家
- 25~30 カブコース実修所奉仕 赤沢山道場(宮沢)
- 6月3日 三ヶ日説明会 BS設立に伴う説明懇談会 三ヶ日万屋旅館(内田嘉、宮沢、山中将、三輪)
- 8日 BS、GS 浜松地区後援会 児童会館1号室 新年度方針に伴う資金増成他
- 11~12日 県西部ブロック会議(コミ、事務長会議)秋葉山 ジャンボリー参加に伴う西部ブロック構成について他(内田、桑島、渡辺、平野、青葉宏、三輪)浜名、磐田、掛川
- 12日 後援会代表者会議=板屋町シャモニー(林、宮沢、高杉、市川、金森、石津)
- 13日 中央防犯連合会長より防犯協力者として表彰さる(中央署3階 内田嘉一、三輪悦爾)
- 15日 地区組織拡張委員会=組織拡張に対する案件(法林寺)
- 16日 南ロータリー御礼説明=高砂ロビー(内田時、内田嘉、三輪)

- 6月20日 三士会(隊長研修会)ジャンボリー参加輸送他(法林寺)
- 22日 大天幕贈呈式=市営プール広場(浜松、東、南、3ロータリークラブより大天幕3張目録贈呈を受ける)
- 23~26日 市主催キャンプ指導者講習会=浜川川宇連山、内田、三輪、平野、渡辺、指導奉仕)
- 28日 雨天(台風の為中止)野営行事=特別委員会
- 29日 仮キャブンセンター候補地霧山下見(内田嘉、三輪)
- 6月 5~6回に分け日脳注射をする(柳本、内田時、横田各医院於)
- 7月8日 仮青少年キャンプセンター引佐地元の要請に依り第2回目の霧山を下見(内田嘉、三輪)
- 9日 地区コミ会議=県連事務局 日本ジャンボリー最終輸送費用関係他(内田嘉、桑島、三輪)
- 10日 浜北子供会指導 内田、三輪
- 〃 新居 〃 宮沢
- 〃 西部ブロック会議(磐田市西坂会館)ジャンボリー輸送関係ブロック役員構成他
- 11日 三士会(隊長研修会)ジャンボリー最終打合(法林寺)
- 13日 地区委員会(野営行事、特別委員会台風中止に依る併用) 日本ジャンボリー輸送関係及費用其他(児童会館1号室)
- 17日 浜名9団カブ隊結成式(鷺津中学校)宮沢、中嶋、三輪
- 18日 13団訪問(渡辺、平野)
- 21日 三士会(隊長研修会兼・法林寺)第4回日本ジャンボリー最終打合
- 25 浜北根堅林業青年家附近及川合淵、霧山両キャンプセンター候補地下見 県連より尾崎忠、山内彦、森田実氏及地元より(内田嘉、三輪)
- 30日 地区内コミ会議(法林寺) 日本ジャンボリーに対する組織的役割再確認等
- 8月4日 ライオンズクラブ天幕贈呈式 浜松駅貨物フオーム(日本ジャンボリー派遣出発前)
- 〃 第4回日本ジャンボリー出発(20時40分発下)
- 11日 午前3時24分着 第4回日本ジャンボリーより約250名無事(事故者なく)浜松駅帰着解散
- 20日 浜松地区ローパー隊(青年隊

-)結成等打合会=児童会館2号室
- 8月22日 第4回日本ジャンボリー反省会(隊長会兼)千才町はまれ食堂 23名出席
- 24日 野外活動指導(工業学校定時制学生)打合、工業学校々長室(内田嘉、平野武、中村、三輪)
- 25日 大天幕整備=市営プール(三輪、渡辺、12団有志9名スカウト奉仕)
- 〃 地区ローパー隊結成最終打合(法林寺)
- 26~27日 森町教育委員会依頼に依る青年キャンプ指導(内田、渡辺、平野、石津)
- 28日 浜松地区ローパー隊(第17団青年隊)結成式=児童会館ホール

家族のすべてがなごやかな楽しいふんい
気でくらしおればその家庭に育つ子どもは、自然におおらかな明るい子どもとなり、将来豊かな人間となります。

国づくり、先づ青少年の人づくり
毎月第3日曜日は
『家庭の日』
浜松市青少年問題協議会

～ 編集後記 ～

あんなにも、あわただしかったジャンボリー前に比べて、この頃は、落ついてしまった感じがします。今まで多くの友を得たジャンボリーで逢いましょうの合言葉を胸に、希望に胸をふくらませ活動した過去が何とも云えない充実した楽しい時であったナーとつくづく感じる今日この頃です。一つ一つと々場々を踏んで検討、反省してこそ、明日への第一歩を踏むことが出来るのだと確信するものです。さあ、活動のシーズンがやって来ました。君も、そしてあなたも、共にスカウトの道に励みましょう。(A)

発行所 №21・22合併号
日本ボーイスカウト浜松地区
事務所 浜松市利町70-4
児童会館内 TEL2-0073
緊急連絡所 TEL2-3018
編集発行責任者 三輪 悦 爾
昭和41年8月28日 発行